

UX設計技術推進協会（UXDQ）の概要

● 設立目的と事業内容

日常生活、特につながる生活環境において、利用者が安心・快適に継続して、製品/システム/サービスを利用して頂けることを実現するひとつの重要な要素である「UX設計技術」の普及・啓発を通じて、我が国民（利用者）の生活向上に寄与することである



● 適用効果

適用効果	UX設計の要素
1. 利用者に安心と快適を継続させる →UX設計プロセス	• 関係するユーザーを明確にする
2. 利用者の共感を得られる新たな体験 価値を創り出す →利用シナリオ	• 関係利用者毎の利便性を抽出する
3. 設計・試験の効率・品質を向上させる →UX設計手法、UX設計指標	• 共感を励起する（感動を明確にする）
4. 運用の効率・価値を向上させる	• タスクを整理して、最適化させる
	• 本質的な機能について議論して、具体化する
	• 主要利用シナリオを抽出して共有する
	• 利用環境を想定させる
	• 定常的にフィードバックを受け、活用させる

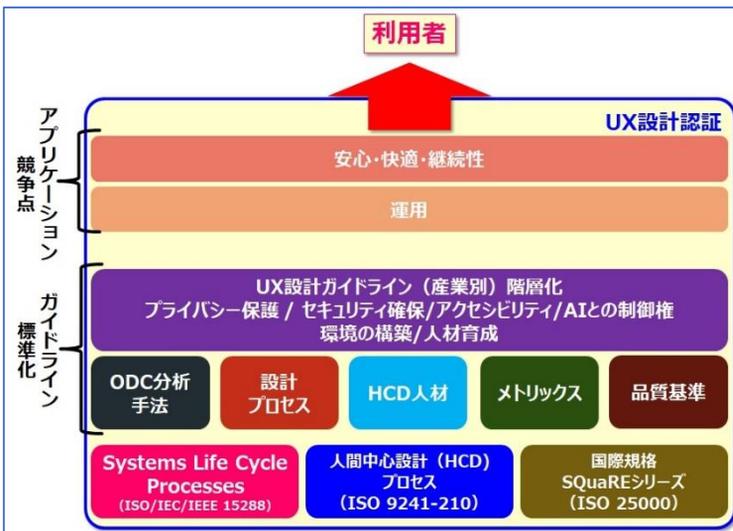
近年、ビジネスの現場において、良いUXの提供が注目されています。企画など上流工程に活用できる手法として、いわゆるUXデザインの考え方が広がってきました。他方、システム設計、ソフトウェア設計や品質保証など実設計の行程がどのように対応すべきは手つかずです。

設計の現場にUX向上に必要な新しい技術をどう加えるかを追求し、現場に適用することを定着させるために、UX設計技術推進協会を立ち上げました。良いUXの提供を目標としたシステムやサービスを確実に市場に届けて、ビジネスの競争力をあげることで、それらを使ったユーザーが実際に良いUXを獲得して笑顔が増える。そんな社会の実現を目指していきます。

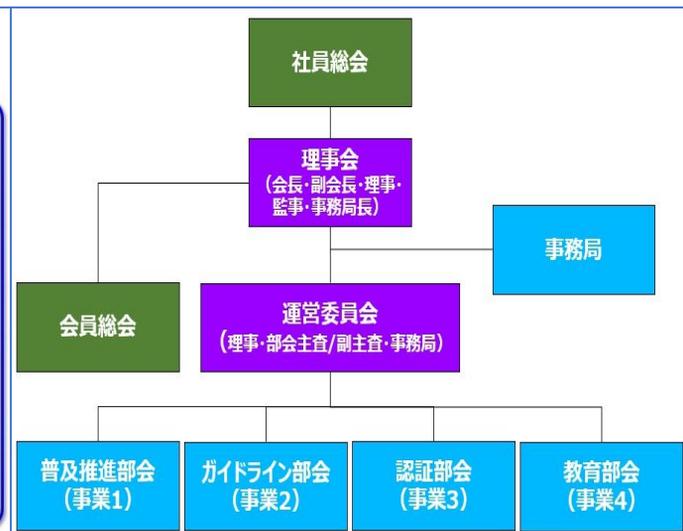


代表理事
伊藤 潤

●活動の構成



●組織構成



●解決が必要な課題

利用者の意思とは関係なく繋がるインフラが生活に導入される環境（つながる世界）で、

- ① 異業種企業との連携（相互互換性品質）必要である
- ② 環境依存（個別最適化）が強くなる可能性がある
- ③ 利用者を含めた系でのセキュリティの品質確保は必須となる
- ④ パーソナル情報、ビックデータ（分析含む）の取扱い配慮が必要である
- ⑤ AIなどのコンピュータ制御と人との制御権の関わりを十分に考慮する必要がある
- ⑥ 短い時間で、機能（価値）を利用者に提供する商品造りを具体化する
- ⑦ 市場導入後（運用フェーズ）のサポート方法、体制の整備が求められる

利用者が安心・快適に継続して機能を使えることが大切である

●会員区分

種別	内容
社員	社員は、本協会の主旨を理解して、設立に中心的な活動を担う法人及び個人
正会員	正会員は、つながる製品/システム/サービスに係わる事業を営む法人及び個人並びにこれらの者を構成員とする団体
賛助会員	賛助会員は、正会員に該当しないもので、本会の目的に賛同し、その事業に協力しようとする法人並びにこれらの者を構成員とする団体
個人会員	個人会員は、本会の目的に賛同し、その事業に協力する個人
学術会員	学術会員は、UX設計技術の学術研究を行う大学、高等専門学校、専修学校、研究機関に属する個人とする

2018/11/23 版

一般社団法人



UX設計技術推進協会

本店住所：〒141-0031

東京都品川区西五反田8-2-12 アール五反田 7B

連絡先 information@uxdq.or.jp

URL：www.uxdq.or.jp